

「子どものみらい応援隊」趣意書

1. 設立の背景

《子どもたちをとりまく環境》

子どもたちを取り巻く環境は劇的に変化しています。放課後、ランドセルを放り投げて、日が暮れるまで外で友達と遊ぶ光景は残念ながら見られなくなり、平日夕方から習い事をはしごする子、忙しく働く親たちの帰りを家で一人で待つ子、外で遊ぶのは物騒だと言われて家の中でバーチャルなゲームの世界に没頭する子など、それぞれの子どもたちがそれぞれの家庭事情に合わせて個別に時間を過ごしているようです。そのような中、地域の子どもたちを地域全体で見守る視点が失われています。

厚生労働省が発表した「平成 28 年 国民生活基礎調査」では、日本の相対的貧困率は 15.6%と公表されました。少子高齢社会の「希望」であるはずの子ども。その 7 人に 1 人が貧困の中で生きている現実があります。この「貧困」という言葉の意味は、単に「経済的な貧困」にとどまらず、社会的な「関係性の貧困」や多世代の関りから学ぶ「体験の貧困」が指摘されています。これらを「相対的貧困」といいます。子どもたちの貧困は、自己肯定感の低下、学力の格差、所得の格差につながり、将来的な貧困の連鎖を生むことが指摘されています。格差は地域社会全体の負担を増加させることが問題となっています。

宇都宮市でも独自に「子どもと子育て家庭等に関する生活実態調査」（平成 30 年）を行い、市の子どもの貧困率は 11.9%で 8 人に 1 人が経済的な貧困状態にあると指摘しています。市は、「経済的貧困」でない家庭の子どもでも「関係性の貧困」になりうると指摘した上で、子どもが「自己肯定感」を高めて成長できるように、①経済的な支援や親の意識改善を促すなど家庭への支援、②子ども食堂や学習支援事業への助成など地域全体の見守り支援をすすめ、「貧困の連鎖」を防止する目標を掲げ、「子どもの貧困対策小委員会」で取り組みを具体化し、「子育て・子育て推進委員会」（次期「宮っ子 子育て・子育て応援プラン」）にて対応すべき課題を整理する方針を示しています。

《子ども食堂など各地域の活動主旨》

その中で、各地に子ども食堂が開設されています。子ども食堂の役割は、「子どもが安心して過ごせる居場所」を提供すること、手作りの温かい食事を提供すること、学習やスポーツ、文化芸術活動の場を提供することなどです。また、集まってきた子ども同士が関係を作ったり、大人たちと触れ合うことでさまざまな体験ができます。また、大人たちも子どもと接することで孤立を防ぎ、生活に張りが生まれるなど、さまざまな効果が生まれています。

《宝木地区での活動主旨》

私たち、「子どものみらい応援隊」（ホームタウン宝木 村井クリニック 宇都宮協立診療所）は、地域全体で子どもたちやそのご家族を見守る「地域全体で子育て」の仕組みを地域に作り、このような考え方を普及してゆくために、3 者で協力して行動することを確認しました。

2. 目的と方法

「子どものみらい応援隊」は、地域の子どもたちが安心して過ごすことの出来る居場所、子どもをとりまく様々な人たちとの交流と見守りの場所をつくる事を主な目的として活動します。また、子どもたちにとっての居場所だけでなく、そこに集うみんなが楽しく参加でき、役割と生きがいを持つことができる居場所となる事を目指します。

子どもは、主に小中学生を対象に、宝木地区を中心としつつも地域は限定せずに参加を呼びかけます。

大人は、勉強を見る、子どもと一緒に遊ぶ、食堂の手伝い（調理や配膳、片付けなど）をするなどの役割を担う方、子どもと一緒に参加できるお母さんやお父さんなどのボランティア参加を呼びかけます。

学校、自治会をはじめ地域で活動する人と組織と連携し、「地域全体で子育て」の理念のもと、地域の子どもたちの健全な成長を見守るとともに、地域課題を共有して課題解決に取り組みます。

また、子どもを取り巻く居場所づくりをすすめる他団体（子どもSUN SUNプロジェクトなど）と交流することで相互に活動を支援し合うとともに、私たちの取り組みをモデルケースとして、他の地域にも子ども食堂の輪を広げられるよう発信し、立ち上げの伴走者として機能することを目指します。

3. 運営母体・資金

「子どものみらい応援隊」は3者の代表で運営委員会を構成し、運営委員会の推薦する地域の方たちを招き定期的な会議を開催し、会議の合議にもとづき「子ども塾☆わいわい食堂」を運営します。

「子ども塾☆わいわい食堂」の運営にかかる費用は、募金で賄います。子どもSUN SUNプロジェクトの2018年度の助成金申請で94,556円が支給され、現在はそれを原資に活動しています。今後、募金箱を設置し、3者で協力して募金を呼びかけます。

また、使用する食材をフードドライブや地元農家さんからの提供などで賄えるよう、地元の善意ある人たちの協力を積極的に呼びかけていきます。

4. 事業活動

- ① 「子ども塾☆わいわい食堂」の開催
- ② 「応援隊」の事業・活動趣旨の周知
- ③ 子どもSUN SUNプロジェクト等の関係団体と連携
- ④ 地域説明会（応援隊の趣旨や子ども食堂のつくり方、ボランティア活動の内容などについて）
- ⑤ ボランティア・プロボノ（＝専門知識を生かしたボランティア）登録・活動促進
- ⑥ フードドライブ（＝家庭などで余った食料を集め、必要としている家庭に届ける活動）
- ⑦ 地域の高齢者の活動の場づくり・役割づくり
- ⑧ その他必要な活動

5. 「子どものみらい応援隊」運営団体代表

- ・ ホームタウン宝木：社会福祉法人 正恵会 理事長 岩崎正日登
- ・ 村井クリニック：医療法人 宇光会 理事長 村井邦彦
- ・ 宇都宮協立診療所：栃木保健医療生活協同組合 理事長 関口真紀

2019年9月20日 子どものみらい応援隊 代表一同